

随想リレー



鳥取の大地震

東京鳥取県人会 常任幹事 八村 義郎

この地震を経験した私たちが、この年代はその時の印象が強烈に残っています。鳥取大地震は昭和18年9月10日の夕方、丁度その時は学校から帰って隣の友達の家で遊んでいる時でした。床を



笑顔で抱負を語る平井伸治知事

平井伸治新鳥取県知事にインタビュー
鳥取県は今やトップランナー。美しい自然、安全・安心な食に新たな輝きを、と力説

4月知事選で初当選を果たしたばかりの平井伸治知事が5月18日午後、鳥取県東京事務所「梨花」編集部とのインタビューに応じた。全国知事会出席の合間を縫った会見で、新知事は「片山前知事時代の8年間で県民と県政の距離が縮まり、オープンな組織作りが進んだ。私は今後こうした環境を地域作り、産業発展へ繋げてゆきたいと考えており、県人会の皆様には是非ともさまざまな形でのご支援をお願いしたい」と語った。



題字/西尾邑次 名誉会員揮毫

第27号
2007年5月30日発行
東京鳥取県人会事務局
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10F
電話 03(5212)9178
FAX 03(5212)9079
発行責任者/中野 純
編集/県人会広報部会
http://www.pref.tottori.lg.jp/tokyoooffice

競い、言ってみれば動脈的価値観が主流を占めていたが、最近では静脈的価値観が重んじられるようになってきている。安全・安心な食・物を摂取し、自然の中で人間らしくゆつたりと生きる...そんな新しい風の中で、従来遅れている『田舎』などと言われてきたことが逆に幸いし、われわれは今やトップランナーになっている、と言えるでしょう」と説明。その好例として、6月町でのサントリー水工場のケースを挙げた。

秋の県人会総会への出席を直接要請するために同席していた上村正明県人会副会長が「2入りを目指すサントリーチーム「ガイナール鳥取」に言及すると、知事は膝を乗り出し、わが意を得たりとばかりに話し出した。「私は東京にいた時は西が丘サッカー場へ応援に出かけたほど個人的に熱心なファンです。県人会の皆さんも大変熱心なのですが、大事な時期ですから県としても何らかの支援を検討してもいいのでは」と考えています」とまで言及した。

9月はじめの県人会総会には是非とも出席して「皆様と直にお話させていただきたい」と言い、最後に「もう一度故郷の応援ほんとうによろしくお願いします。そのためにはまず皆様方に年に1度なら2度、3度帰って来ていただき、輝きを増した鳥取の美しい自然、人情味、味覚、そして暮らしてを十二分に楽しんでいただきたい」と結んだ。

井上靖記念館と碑がある福栄地区の境の向上について、平成19年には「日南町版教育再生会議」の立ち上げを行い、子ども達に必要なものは何かを考えるなどの

教育改革にも着手 平成21年度を目標にした町内小学校の1校統合。将来を担う子ども達に教育の質・教育環境の向上について、日南町版教育再生会議の立ち上げを行い、子ども達に必要なものは何かを考えるなどの

教育改革に着手し、今年、故井上靖先生の生誕100年の記念すべき年であり、名譽町民でもある井上先生の生誕100年を記念する事業も、「通夜の客」などの舞台となった福栄地区を中心にまちづくり協議会などと連携して実施する予定です。

あの街 この町 (24) 水と緑・歴史にふれる町 日南町 日南町は、中国山地のほぼ中央に位置し、西は島根、南は岡山、南西部は広島と3県に接し、「八岐のおろち」の地に、かの伝説の地「船通山」を源に、鉄文化発祥の地として拓け、人と自然が調和して暮らしてきました。

行政改革で自立 平成の大合併で「単独」の道を選択した日南町では、自主自立の道を探るべく、平成16年度から5ヵ年計画で「自立のための行政改革基本方針」を策定し、行政改革を取り組んでいます。

森林の力を学ぶ 日南町の基幹産業である林業振興では、誘致企業である(株)オロチに期待するところが大きく、円滑なスタートとなるよう町として支援をしていきたいと考えています。

教育改革に着手し、今年、故井上靖先生の生誕100年の記念すべき年であり、名譽町民でもある井上先生の生誕100年を記念する事業も、「通夜の客」などの舞台となった福栄地区を中心にまちづくり協議会などと連携して実施する予定です。

マグニチュード7.3であったこの地震は夕食の準備をする時間に起こったので、倒壊した家から火事が発生し家の下敷きになって焼死した人を含め、死者1210人、家屋倒壊7160戸という大惨事でしたが、当時は戦争中でのような暗いニュースはあまり詳しく発表されませんでしたので、「存知ない方も多いと思います。大地震では予想もしない事が起こるので、そのときあわてないことが大事です。

昭和36年9月の生まれだから、今年まだ45歳、静かなたずまいの中に若々さといふ感性が存分に感じられ、座右の銘は「人は城、人は石垣、人は濠」であるという。まさに優れた公僕ならではのスローガンと言え、趣味は家族(妻りえさんと)と子息2人のためのそば打ちと水泳というから、いかにも温厚な人柄を髣髴とさせる家庭人でもあるのだろう。

今、鳥取県西部を舞台にした市民シネマ「梨の花は春の雪」の映画が完成直近かとなっている。この映画は、中海テレビ放送が、欧米に比べて市民参画型チャンネルの試みとして企画、全国公募のシナリオ80篇の中から松本薫さんの原案「雪」の映画が完成直近かとなっている。

松本薫さんは、映画がクラシックインテリゲンチヤムと同時期に原案「雪」の小説として「本を売ることも、映画を作ることも全く素人の私ですが、ただひたすら夢を追いかけている私なんです」と、後刻原作を読んだら、小説の主人公は間違いなく松本薫さん自身だろうと思えたの

も親しみが持てた。ドラマは、大都会から鳥取の梨農家にUターンしてきた夫とその妻、娘が地域社会に順応していく過程での心の葛藤がさわやかに綴られていく。

「私の書いたものが映画になったらどうなるのか、とても楽しみなんです」と、目を輝かせながら語る松本薫さん。「1万人が感動した映画といわれたら」と、今日も西に東にキャンベーンに飛び回っている。映画はこの夏全国公開の予定。写真は、松本薫さん上着書下。(遠藤隆司記)

元帥 元帥酒造 自然の旨味を大切に醸した酒造り

海陽亭 別館 獲れたての海の幸をふんだんに使った創作料理の店。予算：昼、1,000円～夜、1,500円～

あすなろ法律事務所 代表弁護士 山根 幸文 (台吉市出身) 〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目20番3号

キラリ 発行元 ㈱グリーンフィールズ 購読に関するお問い合わせは、下記取扱書店へ、東京新宿紀伊国屋書店 TEL 03-3354-0131

世代間交流の輪広がる 交流部会と県事務所が共催

●本交流会は、世代間の情報交換はもとより、県人会の活性化と組織強化を図る目的で実施された。年30万円の世代間交流費も予算化。



第2回世代間交流会風景

在京の若い鳥取県人と各界で活躍する年配の県出身者と

の交流を深めよう、との活動が、県東事務所と県人会交流部会の協力で本格化してきた。3月20日開催の県人会幹事会で決定された平成19年度予算には新たに30万円の世代間交流費が計上され、新事業のさらなる充実が図られようとしている。

第1回の世代間交流会は、昨年11月24日夜、鳥取県東京事務所会議室で開かれた。県人会側からは交流部会メンバーを中心とする足立盛二郎、岡田武人、古賀信三、島順一郎、近藤裕、杉山繁美、島飼公雄、野口賢照、野口英雄、八村義郎氏の計10人が参加。

一方、20、30年代代表としては外資系投資会社、美術系出向の郷土の食材に舌鼓を打ちながらの立食形式で行われた第2回会合で特に目立ったのは、若者たちの積極的な姿勢だった。

新壽夫著「嫁ヶ皿」の出版を祝う会

去る1月12日『新壽夫著「嫁ヶ皿」出版を祝う会』が金持会(かもちかい)の主催により、虎ノ門パスで、著者に所縁の80数名が出席して盛大に開催された。



出版記念会風景

祝う会は、著者がお世話になられている俳人、画家等の先生からの挨拶で始まった。新壽夫さん(原人会幹事)が「本書は、消えて行く民俗を惜む挽歌と時代を過した郷里の日懸念される今日の社会を立て直すには、古き良き時代への御礼が必要であり、本書はその道標の書となるのではないかと述べ、乾杯の首領を取られた。

「嫁ヶ皿」は、著者である新壽夫さん(原人会幹事)が「本書は、消えて行く民俗を惜む挽歌と時代を過した郷里の日懸念される今日の社会を立て直すには、古き良き時代への御礼が必要であり、本書はその道標の書となるのではないかと述べ、乾杯の首領を取られた。

次世代改革推進本部
本部長 平井伸治知事

新トットリくんお披露目

漫画/かわにし よしと

県人のお店

心地よい懐かしさが漂う

昭和風 居酒屋

居酒屋とうてつ

居酒屋「とうてつ」はJRほっこりくるる昭和风有楽町のガード下にある。赤い狭い空間を想像していたの、玉・川口育ち。お父様の敏彦さん(倉吉市出身)の後をついで9年目になる。鳥取県人会名誉会長の齋木勉さんは伯父さんにあたる。



「おもしろいものを安く提供したいですね。そして、お客様とのコミュニケーションをよくして、できるだけお客様の方がまますまを開ける店にした

い」と齋木さん。客が心おきなく飲める「憩いの場」を目指している。その齋木さんの心意気は、酒や料理の値段にも反映されている。目移りするほど多彩なメニューは和洋・中すべて充実しているが、冷や奴240円を筆頭に平均500円以下という安さだ。1人2,000円、3,000円あれば、たっぷり飲んで思いつき食べられる。「一番人気は、マグロのカツカツ(550円)、鯛のカブト煮(550円)、モツの煮込み(450円)にも人気が集まる。会社帰りのサラリーマンの姿が多いが、金曜日は朝5時迄) ●定休日/日・祝日/TEL/03-3591-1556 文加藤雅子 写真/遠藤隆司

頑張るふるさと企業 その1

名シェフ招いて「鳥取 食のタベ」 県商工会連合会が 東京で一大イベントを展開

鳥取県商工会連合会(中西重康会長)が2月8日夜、JR原宿駅前にある南国酒家迎賓館で「食と文化の宝石箱・鳥取 食のタベ」と銘打った集いを開きました。

頑張るふるさと企業 その2

ウイルス死滅させるマスク 鳥取市「モチガセ」 がメッセに出展

3月2日から3日間、幕張メッセで開催された「第7回JAPANドラッグストアショー」に、大手の医療品メーカーに伍して鳥取市用瀬町から株式会社「モチガセ」(若林一夫社長)が出展しました。

鳥取県東京事務所 人事異動

「新」山下篤生主幹(障害福祉課より)、横井かおり主事(東部県事務所より)、「旧」吉井美和主幹(くらしの安心推進課)、北根尚徳主事(業務課)田原友美主事(退職)

編集後記

世の中「いじよお」だらけである。天候異常もあれば、内外、人間さまの異状も数多い。近頃、天災人災も忘れないうちにやってくるからたまらない。▼新知事が誕生した。トップ記事を飾るので発行が遅れてしまった。深謝。▼皆さまのゴールデンウィークは如何でしたか? (遠藤隆司)

展示場風景



4月29日(日)春の叙勲で本会員岸本壽氏(元オリンパス社長、倉吉市)が旭日中綬章を受賞。